

最上級生の思い その①

令和2年度、2学期が始まりました。過日の第1学期終業式、そして、昨日の第2学期始業式で、全校生徒に向かって、各学年、あかつき学級の代表生徒が素晴らしい作文を発表しました。その中で最上級生の3年生が今、どのような思いで生活しているのか紹介いたします。

悲しかったことだけではなく、支え、支えられて乗り越えたことを・・・

一学期を振り返って K・Rさん

ほとんど家から出ることが出来ず、知らないうちに春が終わっていた6月から私たちの新学期は始まりました。「一定の距離を保って」が合い言葉のようにになっている毎日ですが、私が一学期を振り返るにあたって一番に思い出すことは、人の支えのありがたさでした。自分達はどれほどの人に支えられて学校で生活しているのか。私は一学期を通して身にしみて知ることが出来たと思います。

6月からスタートした私たちの中学3年生としての生活。私たちは最後の晴れ舞台である中総体、文化発表会を失いました。けれど、代わりに何か思い出を残してあげたいという先生方のあたたかい思いが部活内での発表や試合、他校との交流戦、校内での各文化部の作品の展示などへと姿を変えました。また体育祭や合唱コンクールは、開催が難しいのではないかと言われてきました。けれど、最大の楽しみであったといっても過言ではない修学旅行が中止になった私たちに少しでも楽しみを増やしてあげたいと努力してくださった先生方のおかげで、合唱祭と体育祭は無事に開催が実現されました。私たちの思い出は例年開催されてきた行事とは形式が違えど誰かが誰かを思いやった優しさで形づくられていったのではないかと思います。

また、行事だけではなく、6月からずっと学校生活を送っていたのも私たちを支えてくださった方々が多くいたからこそでした。保護者の方々に募られ作られたウィルスバスター隊、毎朝の検温チェックや最近まで放課後に生徒の代わりに掃除をしてくださっていた先生方、健康管理を気遣ってくれた家族、そしてたわいのないことで笑って元気にさせてくれていた友人達、考えると感謝が尽きません。それらの支え全てがあったからこそ、こんな状況でも笑顔で毎日学校へ通える日常になっていったのだと感じています。

もしかしたら何年後かの教科書にこの怒濤の出来事が載るかもしれません。その時は悲しかったニュースやなくなった出来事だけを載せるのではなく、どれほどの人が支えて、支えられて乗り越えたのか、そんな温かいエピソードを載せてほしいと感じる一学期でした。

短いようで深かった一学期が終わり、秋休み明けからは、いよいよ中学校生活最後の2学期が始まります。残り5ヶ月。支えてくれたたくさんの人達の思いをしっかり抱えて、自分が決めた目標に向かって最後まで走りたいと思います。

感性豊かで、感動的な文章です。是非、保護者の方々と共有したいと思い、Kさん本人の許可を得て掲載しました。多くの生徒が、教職員に感謝の気持ちを伝えてくれていますが、私たち教職員も、笑顔で登校し、限られた時間を大切にしようとする生徒たちに支えられ、感謝し、そして保護者の方々や地域の方々に感謝しながら、毎日の生活を送っています。Kさんの文章のように、互いに支え、支えられて乗り越えようとしている事、乗り越えた事が次の時代に繋がってほしいと思います。

※ 今回は、始業式の決意、Y・R君の作文です。